▲ハンカチ

▲ヒノキ間伐材

▲神戸市と共同制作した子供服

日本の伝統技術の継承

（一社）アップサイクル

現代および将来の世代のために持続可能な社会の実現に向け、廃棄される資源や食品残滓のリサイクル性向上を推進する企業連携のプラットフォームとして一般社団法人アップサイクルが設立されたのは、今年2023年2月のことである。現在の参加企業数は、旗頭のネスレ日本㈱をはじめとする17社。プロジェクトの第1弾として打ち出されたのが、廃棄される紙資源や間伐材をアップサイクルした紙と間伐材を素材にした「TSUMUGI」という糸だ。

紙は再資源化しやすい素材である。しかしながら、紙製容器包装においては家庭からの排出量73・8万トンに対して、容器包装リサイクル法に基づき回収され、リサイクル商品に使用されているのは約2万トンであり、そのリサイクル率は約2.7％に留まる。それに加えて、山林の保全や防災、道路設備において発生する間伐材の一部は、大きさや形状またコスト面から活用が難しいものがあり放置されているなどの社会問題がある。この問題を解決するのがプロジェクト「TSUMUGI」である。

「TSUMUGI」の特長は、紙でできていることによる軽量性と吸水性、包み込まれるようなやさしい肌触り。機能性でも十分に一般商材と勝負できる品質だ。また、素材には、回収費の問題により六甲山（神戸市）に放置されていたスギやヒノキの間伐材を利用している。

「TSUMUGI」は現在、参画企業内で社内ボランティアのユニフォームやハンカチといったノベルティの作成などに利用されているが、子供たちにファッションを楽しんでほしいという思いで、3月24日には神戸市と共同で開発した子供服を児童養護施設に贈呈した。さらに、検査を既に終えた一般消費者向けの商品も今秋を目安にリリース予定だ。例えば、テクノロジーと伝統技法を融合させた友禅染めの商材。職人と学生が共同で開発を進めている。他には、神社で奉納期間を終えた木材を活用したお守りに加え、糸と同じ作り方を参考にした水引のアクセサリーがある。

一般社団法人アップサイクルでは、新たな資源や技術の提供、製品開発、コラボレーションに関心のある企業・団体からの法人加入についての問い合わせを随時受け付けているほか、活動に賛同する一般賛助会員も募集している。

同法人は第2弾のプロジェクトとして食品の活用も視野に入れている。林業や繊維業など、日本のモノ作りを元気にする Made in Japan にこだわりアップサイクル活動を続ける同法人。今秋リリース予定の商材も含めて、今後の活動に期待したい。

一般社団法人アップサイクル
https://upcycle.or.jp/

▲「TSUMUGI」ロゴ　▲法人ロゴ

▲「TSUMUGI」